

### 1. 授業科目と単位：

生理評価論 (○)講義 ( )演習 ( )実習 2 単位

### 2. 履修対象者：

(○)D1, (○) D2, (○)D3, (○)D4, (○)D5: ( )文化科学研究科, ( )総研大の全研究科, その他  
( )

### 3. 授業担当教員：仁科エミ

担当教員との連絡 (e-mail、電話、FAX、研究室)：

質問は e-mail か e-mail で調整した時間の面談を歓迎する。(nishina@nime.ac.jp、電話/FAX  
043-298-3222、メディア教育開発センター 研究棟 502 号室)

### 4. 授業実施期日時間：

集中講義(受講生と日程調整をして設定する)

### 5. 授業実施場所：

メディア教育開発センター研究棟 8 階講義室

### 6. 履修条件、受講方法：

特になし

### 7. 授業内容の概要：

さまざまな視聴覚メディアから供給されるメディア情報が人間、とりわけその脳にプラス・マイナスに及ぶ多様な影響を及ぼすこと明らかになりつつある。これらを定量的に捉える生理学的評価手法を中心に、関連する心理学的・行動学的研究手法の原理を理解し、各自の研究計画に必要な応じて導入するための基礎的な知見をえる。その実例として、知覚限界をこえる高周波成分の生理・心理・行動的影響の研究における適用例を示す。生理学的手法をもちいた研究に求められる研究倫理についても解説する。

### 8. 授業の達成目標：

1. 脳波、脳血流などの脳活性を直接的に反映する生理学的評価指標と、これらと深い関連を持つ生理・心理・行動的評価指標について、その原理を理解すること。
2. メディア情報環境が各種生理学的指標に及ぼす影響について理解すること。
3. 生理学的評価手法について、その原理的な有効性と限界について理解すること。
4. 生理学的評価手法をもちいた研究における研究倫理について理解すること。

### 9. 授業計画：

以下の内容について集中講義をおこなう。

- (1) 情報環境学の基礎
- (2) 脳における物質と情報との等価性について
- (3) メディア情報に対する脳の反応を捉える生理学的手法(脳波, PET, fMRI など)
- (4) メディア情報に対する反応を捉えるその他の生理学的手法
- (5) メディア情報に対する反応を捉える心理学的手法

- (6) メディア情報に対する反応を捉える行動学手法
- (7) ヒューマンインタフェースとしての計測機器
- (8) 計測環境
- (9) 呈示試料とその呈示システム
- (10) 生理反応の時間的非対称性
- (11) 生理学的研究における研究倫理

**10. 使用参考書、参考文献：**

講義で使用する資料は、必要に応じて配布する。

参考文献書

大橋 力 2003 「音と文明—音の環境学ことはじめ」 岩波書店

柴崎 浩・米倉義晴 1994 「脳のイメージング」 共立出版

**11. 単位取得要件と成績評価基準：**

集中講義に出席し、達成目標 1～4 のうち 1 点以上について調査あるいは見解をレポートにて期限までに提出した受講者のうち、要点を理解していると判定されたものに単位を認定する。成績は可否で示される。

**12. その他のコメント**

特になし。